

羅臼湖部会の現地踏査（第5回、7/29）の結果について

1. 参加者（敬称略）

- 羅臼町・知床世界自然遺産協議会（佐々木）
- 知床ガイド協議会（湊）
- 知床羅臼町観光協会（池上）
- 根室振興局（宮部）
- 根釧東部森林管理署（上野、梶岡、本田、大野）
- 釧路自然環境事務所（野川、三宅、木村）
- ニュージェック（川端）

2. 踏査のルート

- ・冬道の入口～二の沼の東側ルート
- ・二の沼から三の沼展望台方向に至るルート

3. 踏査ルートの概要

- A：冬道の入口から二の沼東のピーク付近を目指し、二の沼に到達するルート。入口付近から日差しが入る疎林が続き、ササ丈も低いことから歩行しやすいが、ピーク付近はハイマツが密生する。
- B：二の沼から三の沼手前まで、既存の付替ルート案より大きく迂回するルート。二の沼へ流れる沢を上流地点で渡渉する。渡渉地点のやや先からはハイマツが密生する。
- C：二の沼階段付近の迂回路から、二の沼の既存木道に到達するルート。後半にハイマツ帯を抜けるが、比較的歩きやすい。
- D：二の沼から一の沼への既存歩道の途中から、ハイマツ帯を通過し、冬道の入口に至るルート。入口付近は地面が凸凹でハイマツの根が這ったルートだが、途中から冬道入り口までは疎林で歩きやすく、地面も平坦なためルートとしては適している。

4. 主な議論

- ・Aの入口付近はハイマツが少なく歩きやすい。また平坦な部分が多いので、歩道浸食の発生も抑えられると考えられる。しかし、ピーク付近はハイマツが濃く、ルートとして設定した場合はハイマツを大規模に伐採する必要がある。眺望は素晴らしいため、眺望を見せるための枝道を設置しても良いのではないか。
- ・ハイマツの枝は、切らずに紐で束ねるなどの措置でも対応可能ではないか。
- ・Bは渡渉地点のやや先からハイマツが密生するため、ルートとしては不適切だろう。ただし、二の沼に流れる沢を上流部分で迂回することは良いと考えられる。既存の付替ルートだと、融雪期に水が流れる部分を歩くため、泥濘化が進む可能性がある。

- C後半のハイマツ帯は比較的歩きやすく、二の沼の既存木道を残すのであれば、ルート候補となるだろう。
- C後半のハイマツ帯は、二の沼方向の傾斜地を歩くこととなり、仮に浸食が発生した場合に二の沼に土砂が流入する位置関係にあるため、ルート設定は避けた方が良いのではないか。
- Dは、木道が少なくて済む点が良い。既存の付替ルートだと、二の沼付近は木道の設置が必要になるだろう。入口部分のハイマツが濃いことや、景観が優れない点が課題である。
- 既存の三の沼展望台は、きれいな逆さ羅臼岳の写真を取ることができない。既存の枝道を10m程度残すか、展望台の高さを上げる対応をして欲しい。

状況写真



Aの明るい疎林



A上部のハイマツ帯



Aのピーク付近の眺望 知床峠から国後島まで見える



Bの渡渉地点



Bのハイマツ



Cの出口（二の沼の既存道）



Cの途中 前半はササが生えるのみ



Dの途中 ハイマツが濃い



図1 第五回 羅臼湖踏査ルート往路(2011.7.29 実施)



図2 第五回 羅臼湖踏査ルート復路